

〔農業全書四〕茼蒿

倭俗かうらい菊と云、又春菊とも云、本草には八九月に種子をまき、冬春取食ふ、莖肥て味辛く甘し、四月に莖生じ黄花あり、花はひとへなり、菊に似たり、其性平にして毒なし、心氣を安くし、脾胃を養ひ、疾を消し、腸胃を利すとあり、農業通決には、二月にうふるとあり、是は春の食とせんためならん、苗の時ひたし物あへ物となして味よし、冬春たびくにつくり用ゆべし、花も又見るにたへたり、

名路

〔新撰字鏡〕葶 不々支、菜同、

〔本草和名九〕欸冬、楊玄操音、一名橐吾、一名顯東、一名虎鬣、一名菟奚、一名氏冬、楊玄操音、一名於屈、釋性、一名耐冬、名花、兼一名苦莖、一名欸凍、廣雅、和名也、末布々岐、一名於保波、

〔本草和名十八〕柶莖菜、一名路伏、又有金實草、出崔和名布々岐、

〔倭名類聚抄〕路、崔禹錫食經云、路、音路、和名、葉似葵而圓廣、其莖煮可噉之、

〔箋注倭名類聚抄〕按路即爾雅顯凍是也、郭注欸冬也、紫赤華生水中、藝文類聚引吳普本草云、欸冬十二月花黃色、蓋謂其花未舒者紫赤、即開則黃白也、本草欸冬蘇注、葉似葵而大叢生、花出根下、是可以充布々岐、

〔類聚名義抄〕欸冬、云ヤマフ、キ、一、〔同九〕欸冬、キ、一名虎鬣、山吹花、欸東、訓同、〔同三〕虎鬣、欸冬、

〔伊呂波字類抄〕不、植物附、植物具、路、フ、キ、柶莖菜、路伏、金實草、同、見本草、

〔下學集〕草木、欸冬、積莖、華也、本草云、欸冬十二月有華、其色黃或紫、其味苦也、三體詩云、僧房逢著欸冬、雪時分也、然我朝、朗詠集、清慎公詩云、欸冬誤綻、暮春風、何哉、所證日本之俗、皆以山吹謂欸冬、山吹即、

暮春風、乎、欸冬、字、而、云、爾、耳、詩、意、雖、工、用、上、故、事、誤、矣、可、辨、之、